

令和7年度 卒業式



本日、令和7年度の卒業証書授与式を執り行い、幼稚部修了生1名、小学部卒業生3名、中学部卒業生3名に卒業証書（修了証書）を授与しました。卒業生の皆さん、おめでとうございます！

中学部を巣立つ生徒にとっては、本日が本校との別れになりました。

一人は寄宿舎生活を幼稚部から12年間続け、頑張ってきました。16日の夜に行われた寄宿舎のお別れ会では、お父様とお母様のメッセージビデオが流され、12年間で自宅のある滝川と往復した距離が9万キロであり、地球2周分になると話してくれました。往復で100km以上の距離を送り迎えするだけでも大変なことだったと思います。

また、もう一人は、比布町からの通学でしたので通学自体に苦労したことも多かったのではないかと想像します。保護者の送り迎えのサポートも往復で30kmキロ以上の距離を中学部2年まで毎日続けたそうです。本人に聞きますと、親の負担を減らそうと中3から自力通学をはじめたと話してくれました。今では当たり前のように自力で登下校し、偉いと思います。よく頑張りました。

そして、もう一人は、地域の中学校に通うことにチャレンジしましたが、本校の良さを再認識し、帰ってきてくれました。それも一つの学びになったと思います。中3の後半に聾学校に戻りたいと決めた時に自分の気持ちを尊重してくれたことに感謝していると話してくれました。

本日の卒業式では、本校を巣立つ3名が保護者の大変だったことに思いをはせ、感謝し、「別



れのことは」を述べていました。とても立派でした。本当によく頑張ったし、準備したかなりの分量がある文章を、覚えて自分のことばとして話せていたことに感動し、卒業生の成長を感じました。

手前味噌になりますが、今日の卒業式はさながら学習のまとめの発表会のように感じ、素晴らしいと思いました。在校生も卒業生も「贈る言葉」と「別れのことは」を全員が自分の言葉を覚えて話す姿に気持ちがこもり、この卒業式を思い出に残る良い卒業式にしようとする意思を感じました。

4月から小樽市銭函にある北海道高等聾学校で新しい学びをスタートさせる3人を私たちは応援し続けます。

我が子を信じ、本校を信じ、お子様の送り迎えなどで学びを支えてくださった保護者の皆様には、敬意を表します。本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

さて、式辞で私は、卒業生に向けて次のようにメッセージを伝えました。

「しっかり自分を見つめ、大きく成長してほしいと思います。そのためには、**自ら挑戦すること**を忘れないでください。自ら求めれば必ず答えが返ってきます。「**心の眼（まなこ）**」で**見て、判断し、行動する**ようにしてください。そうすれば、きっと、正しい道が見えてきます。そして、早く**自分のやりたいことを見つけて**ください。自分がやりたいことが見付かるまでは、**学ぶことに垣根を作らず何でもチャレンジ**してほしいと思います。」と。

子どもたちはきっと私たちが知らない未来を切り開いてくれることでしょう。

卒業証書授与式を終えた本日、卒業生には是非、大きな夢をもってその夢を実現すべく、まっすぐ前へ進んで行ってほしいと願っています。

皆さんの未来が楽しみです。

「Go Straight！！（ゴー・ストレイト）」です。

何か迷ったり、進展があつたりした際は、是非、報告しに母校に遊びに来てください。待っています。

